

中名田地区長期構想計画

～田村のゆめづくり～

2004年（平成16年）3月



【伝統的行事 中名田の松上げ】

中名田地区長期基本構想計画策定委員会

はじめに

小浜市における平成13年度から3カ年にわたる「新世紀いきいきまち・むらづくり支援事業」をうけて、中名田地区では、「中名田長期構想計画策定委員会」－田村の郷ゆめづくり委員会(別称)－を設立し、この3年間に委員会や部会における検討ならびに調査や先進地視察を経て、ここに策定委員会としての提言をまとめて区長会に答申をする運びとなりました。

委員のみなさんには、延べ数十回もの委員会や部会を開催し、知恵を出しあい意見をたかかわせていただきました。また地区住民の方々にも、意識調査や中間報告会にご協力をいただきご指導を頂戴致しました。このように大勢の方々のご努力とお力添えがあつて今日に至りましたことを深く感謝申し上げます。

現在の中名田は、小浜市の中でもっとも高齢化率が高く、まさに高齢社会と呼んでもよい地域であります。日常生活の中にあつて、市街地から1.4km南川上流に位置するところで買物や病院、市役所などに行く場合とか、日々中学生、高校生が通学するにあつても交通の面で、多くの方が不便を感じています。そのため地区外に家を新築する人もあり緩やかではありますが過疎化現象が進んでいます。また、農林業の衰退と農業者の高齢化や担い手不足などで休耕地も増加している状態で、多くの面で活力の停滞が見られます。

そういった中で委員会ではむらづくりの方向性を確認するために、この地区が現実抱えている諸問題を洗い出していくことにしました。その一つに中名田に在住する20歳以上の方々全員に、むらづくりに関わり多方面にわたる意識調査を実施して、指摘された問題点や発展対策などを元に委員会の話し合いを展開し、10年後の中名田の進展した姿を将来像として描き、その振興策を示したいと考えました。

また、小学生全員にも中名田の未来を作文と空想画にかくことでこの事業に参加していただきました。さらに、IT部会を設け中名田のホームページを開設して、広く日本中に中名田を発信しています。遠くに住む人や中名田出身の方からのメールで、委員以外の方々のお知恵と励ましをも頂きました。

「住みやすい、住んでいてよかった、移り住んでみたい中名田」を基調に、子孫に胸を張って残せる「21世紀のむらづくり・むらおこし・世直し」と位置付けて検討してまいりました。伝統や文化、自然特性とそこで育まれた地域のよさを残しつつ、住む人みんなが元気で、ふるさと中名田の特色がいっぱい感じられ、どこにもないオンリーワンの地域になってほしいと願いをこめて進めてまいりました。

ここにできあがった提言書は、住民の方々の地区振興に対する切実な気持や熱意を結集したものであります。この度区長会に答申をさせていただきますが、この提言書が中名田の今後の発展に寄与できればこの上ない喜びであります。答申後は区長会として新しい時代にふさわしい素晴らしい中名田の実現に向けてご尽力されますことを切望して挨拶させていただきます。

平成16年3月

中名田地区長期基本構想計画策定委員会
委員長 東 義 生

目 次

総論

中名田の概要

◇中名田の自然特性	P 4
◇中名田の歴史	P 4
◇中名田の社会特性	P 5
◇中名田の産業	P 5
◇人口の動向	P 5

めざす将来像	P 6
--------	-----

長期基本構想計画の大綱

第1章 新しい時代にふさわしい生活をめざして

第1節 生活の見直しと改善	P 7
第2節 行事の見直しと時代にふさわしい行事への改善	P 7・8
第3節 伝統文化の継承と創造	P 9

第2章 明日を担う人材の育成をめざして

第1節 家庭教育の支援、課題が共有できる環境づくり	
1 家庭や地域社会の教育力の充実・推進	P 11
2 男女共同参画社会の形成	P 12

第3章 快適で住みよい生活環境をめざして

第1節 社会的な生活基盤の整備	
1 道路交通網の整備	P 13
2 快適な住環境の整備	P 14
第2節 自然環境の保全	P 14
第3節 川に親しむむらおこし	P 15
第4節 森に親しむむらおこし	P 15

第4章 健康で安心して暮らせる地域をめざして

第1節 日常的な健康づくりの継続的な実践	P 16
第2節 医療体制の充実	P 17
第3節 施設づくり	P 17
第4節 生きがいづくり	P 17
第5節 ボランティア活動の推進	P 18

目 次

第 5 章 活力ある産業の振興をめざして	P 18
1 農業	P 18
2 林業	P 19
第 1 節 農業・林業の振興	
1 農業振興	P 19
2 林業振興	P 20
第 2 節 地域産業の振興と特産品の開発	P 20
第 6 章 IT 革命時代に即応した地域づくり	P 21
ホームページの開設	
中名田地区長期構想計画策定委員会経過	P 22・23
中名田地区長期構想計画策定委員会名簿	P 24
中名田地区長期構想計画策定委員会設置要綱	P 25・26
田村の郷ゆめづくりアンケート結果	P 27～36

総論

中名田の概要

◇中名田の自然特性

中名田地区は、小浜市の最西南端に位置し、北緯35度26分、東経135度48分に位置している。海拔はおよそ80メートルで東部は口名田地区に、北部は加斗地区および大飯町に、南部と南西部は名田庄村に囲まれている。四囲は延々と波行した山脈で区画され、東西約13キロメートル、南北約4.5キロメートル、総面積はおよそ32キロ平方メートルで、その87パーセントが山地である。その細長い地形の西から東へ田村川が、東から西へ深谷川が流れ、いずれも南川に合流している。

これらの流域に小屋、上田、下田、和多田、深野、深谷の6区が散在している。

気候は、北陸気候区に属し、裏日本式気候で、若狭湾沿岸を流れる対馬海流の影響を受け温和・温暖である。かつては南川を上下する舟が交通手段の一つとして利用されていた。

現在は国道となっているが南川に沿って走る道路が京都との交通の要路であったことから、歴史的・文化的に風俗、習慣、言語などは京都とのつながりが深い。自然豊かな農山村である。



【道の駅 田村薬師】

◇中名田の歴史

若狭国志に深谷(谷口、田茂谷)、和多田(上和多田、下和多田、大瀬)、田(上下あり)、小屋(上下あり、広瀬)、三重村の小名深野(秋輪、関屋、市場、兵瀬、秋場、山田、小野池)、以上の五村は名田の庄に属し、また富田郷(とだのごう)と呼び、和多田、田村、小屋を今、田村谷という。田村の内の小名は、いずれも人が住む脇原、山左近、岸、清水、竹本、持田、小村、見谷、岩井谷。郡県志によると持田、小村、岩井谷は上田村で、岸、山迫、脇原、塩瀬、清水、竹本は下田村となっている。

そもそも「田村」の地名は、平安時代の武将である坂上田村麻呂に由来し、ゆかりの寺院も存在する。何千年、何百年の歴史を秘めて我々の祖先はこの中名田に眠っている。美しい山河、昔ながらの温かく真面目な人間性、この中名田の良さが、必ずやいつの日か若狭の脚光を浴び発展するであろうことを信じてやまない。

◇中名田の社会特性

主な交通としては、国道162号、県道岡田・深谷線(県223号)のみである。特に県道岡田・深谷線は、小屋地係で行き止りとなっており、中名田は袋小路の奥にあたり他地区との交流に支障を来している。

国道162号の相生・深谷間は、急峻な山腹を通ることから崖崩れや、南川への自動車などの落下防止、更に冬期の路面凍結も危険であることから早急な改良も含めた広域的な交通網の整備を期待している。人口は、減少傾向が見られ、若年層の流出、少子高齢化が進行している。

◇中名田の産業

かつては、製炭、製紙、養蚕なども盛んであったが、現在は製炭および製紙業はそれぞれ2名のみとなった。

農業の現状については、後継者や担い手不足、農業者の高齢化、米価の下落による生産意欲の減退などで休耕田が増加し、農業を取り巻く環境はますます揺らいでいる。

林業の現状は、国内林業の長引く経営不況に伴い、植林の資産価値の低下、後継者の不足および高齢化など、林業者の経営意欲は大きく減退し、管理者の行き届かない山林が多くなってきている。

◇人口の動向

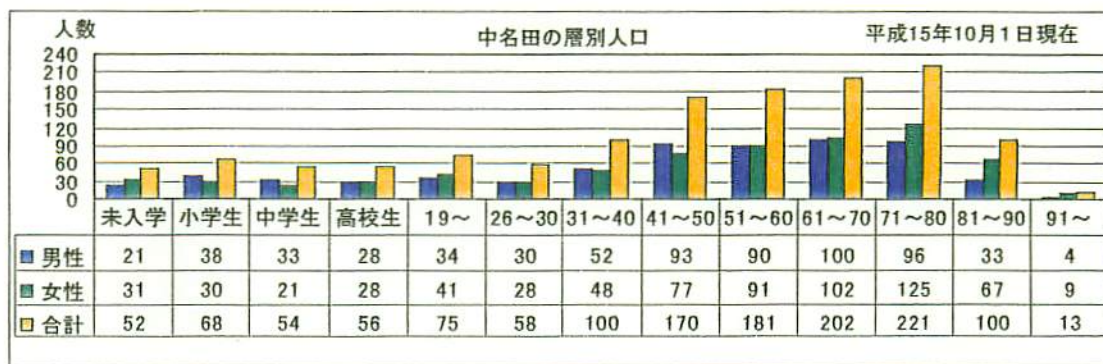
中名田の人口は、1,350人(平成15年10月1日現在)である。人口動向をみると、今から87年前の大正3年末の人口は2,474人(男1,307人、女1,167人)、世帯数469世帯で1世帯人口は5.5人であった。以後、昭和25年をピークに現在まで人口は減少をたどっている。

50年前の昭和25年と平成12年国勢調査の人口を比較すると人口では784人、世帯数では53世帯、また、1世帯人口では1.3人各々減少している。

人口減少の要因をみると昭和30年以降、核家族化の進展が著しく、一方、経済の高度成長によって大都市への人口流出で農村地域は過疎化現象が顕著になった。

中名田でもふるさとを離れた若者が多かった。昭和18年の中名田小学校の児童数313人に対し、平成13年の児童数はわずか88人であり、ちなみに15年4月の児童数は68人である。

近年、子供の出生率が低下したとはいえ、若年層の都市への流出は中名田地域もその例外でない。人口の減少傾向とともに住民の高齢化が大きな課題を投げかけている。中名田の高齢化率は33%(平成15年4月1日現在)で小浜市では一番の高率である。



【中名田の人口】

めざす将来像

中名田地区では、平成13年度に「住みやすい、住んでいて良かった、他所から移り住んでみたい中名田」を世直し理念として掲げ、平成25年度を目標年次とする長期基本構想計画「田村の郷夢づくり」プランを策定することとした。



【平成14年度中名田小学校6年生作品】

- 1 新しい時代にふさわしい生活をめざして
- 2 明日を担う人材の育成をめざして
- 3 快適で住みよい生活環境をめざして
- 4 健康で安心して暮らせる地域をめざして
- 5 活力ある産業の振興をめざして

上記の5つのテーマをむらづくりの基本理念として推進することにより、地区の将来像の実現をめざすものである。中名田地区の情勢は、緩やかながら人口の減少が続くとともに、少子・高齢化が進行している。

また、県道岡田・深谷線の早期開通、国道162号の改良、少子高齢化対策、農林業の後継者問題等々の多くの課題が山積している。

交通網の整備、生活基盤の整備・向上をめざし、更に公共施設および企業誘致等の促進により、目標年次の人口を1,500人と想定し、なお将来的には2,000人をめざすものである。

長期基本構想計画の大綱

第1章 新しい時代にふさわしい生活をめざして

第1節 生活の見直しと改善

生活改善については、以前からの課題で冠婚葬祭は年々高額になるとともに派手さが加わり、家計的に大きな負担となってきた。



【行者山から眺めた田村川流域】

祝事などについて

- ・ 一般への厄年・還暦などの祝い物を配ることは、廃止する。
- ・ 団体長の就任時振る舞いは、自粛する。

遠夜について

- ・ 一般としての遠夜への御仏前は、1,000円。
- ・ 施主は、供養として、缶ビール1缶またはジュース1缶を提供する。

葬儀について

- ・ 一般としての香典料は、3,000円以内。
- ・ 会葬者への山菓子も、廃止する。

法事について

- ・ 御仏前料は、5,000円。
- ・ 御供え物は、2,000円程度のものであるとする。
- ・ 施主は供養として、会食の提供をするだけとする。

第2節 行事の見直しと時代にふさわしい行事への改善

現在の中名田地区では、地区、各種団体、保育園、学校等で毎年多種多様な行事が計画されている。しかし、これらの行事を企画、実施していくことは、多くの住民が休日を返上しての参加となり、家族とのふれあいの場を損ねることもある。

そこで、行事全体を見直し、若者が積極的に行事に参画し、主体的に魅力ある行事を創造し、ふるさとの活性化につなげていかなければならない。魅力ある時代にあった行事をめざし、改善および廃止の検討をする。

健康ウォーク

健康ウォークは、平成 11年度から実施し毎年250人余の参加がある。地区民から好評を得ている。



総合文化祭

総合文化祭は、地域の農青部が主催で農産物の品評会、伝統的芸能など多彩な行事で地域住民の憩いの場として貢献してきたが、マンネリ化してきている。

今後、諸団体の参加を視野に入れた新しい感覚の改善が要求される。



【滋賀県朽木村】

地区民体育祭

地区民体育祭は、歴史もあるが近年になって見直しの機運が高まっている。少人数の区でも参加可能な種目を検討し、地区民全体の体育祭にする。

また、隔年実施と保育園および小学校との合体運営も検討する。



敬老会

現行の対象者年齢は70歳以上で、平成 15 年度の対象者は、371人である。今後、増加の一途をたどる。

今後、参加者会費徴収及び段階的な年齢の引き上げを検討する必要がある。

第3節 伝統・文化の継承と創造

中名田地域の伝統的芸能には、六斎念仏、神楽、大太鼓が、勝地旧跡には、三本柳、亀ヶ淵、不動の滝、三瀑布、小村城跡、七人塚、堂屋敷、温泉跡、深野城跡、深野遺跡などがある。また、年中行事には、氏神祭、薬師祭、愛宕祭、地藏盆、文七踊り、松上げ、狐狩りなどがあり、地区民はいろいろな行事にこぞって参加し、伝統を愛し、守り温かい心のふれあいの場としてきた。

しかし、こうした習俗もあるものは失われ、あるものは簡素化され、地区民の気風も近年著しく伝統行事、文化に対して希薄になってきた。

ふるさと中名田のもつ、古くからの信仰的な民俗行事、極めて素晴らしい伝統芸能を後世に継承し、文化活動による地域づくり、人づくりの推進を図るとともに新しい文化の創造をも図っていきたい。

- 行事や種々の試みに対し、広報活動の推進
- 地域の祭りに付随する神楽や大太鼓をアレンジした地域独特の太鼓グループの結成

- 文化財の掘り起こし
田村薬師、小村城跡、和紙・染紙・紙加工等の観光宣伝
- 伝統的芸能「文七踊り」等を核にした地域全体行事の企画



和多田区【大太鼓】

若狭路博2003 出演



上田区【神楽】



【オーストラリア教師

ケネディ・マーガレットさん

若狭和紙の体験】

第2章 明日を担う人材の育成をめざして

21世紀を迎え、IT革命の革新による高度情報化の進展、少子高齢化、核家族化、都市化、国際化などにより、青少年を取り巻く社会環境は急速な変化を見せており、青少年自身の価値観やライフスタイルも多種多様化している。また、街頭犯罪の7割を青少年が占め、喫煙、深夜はいかいなどで補導される不良行為を行う少年が急増するなど、青少年の問題行動が深刻化している。

こうした青少年問題は、今の社会をつくる大人たちにも原因の一端があると指摘されている。次代を担う心豊かでたくましい青少年の育成を図るため、青少年自身の自覚や努力を促したい。

また、大人が意識を改革し、家庭、学校、地域、職場など社会全体で、青少年が夢や目標をもてる明るい社会づくり、心を豊かにするふれあい活動の推進を図るとともに青少年非行等防止対策の推進に積極的に取り組んでいくことが極めて重要である。

地区の子どもは、地区の次代を担う大切な宝ものである。地区全体として、学校と連携をとりながら健全な育成を図っていくことが、地区に住む私たち一人一人に課された重要な課題であることを認識したい。



【世代間交流 そばの種まき】

【バス停を清掃する中学生】



第1節 家庭教育の支援、課題が共有できる環境づくり

1 家庭や地域社会の教育力の充実・推進

- 地域全体で子ども達を育成する環境づくり
- 他人の子を叱り、ほめられる環境づくり
- あいさつ運動の展開
- 世代間交流(三世代交流が望ましい)の推進
- 特技をもつ人材による子ども向け体験講座の開設
- 地区外の児童生徒、家族の参加を視野に入れた自然(林道、川等)を利用した野外活動の企画立案
- 地域に根づく若いふる里の担い手の育成
- 家庭・地域・学校の連帯強化



【世代間交流】

- 鮎の放流と生態を勉強
- お茶会
- ペタンク



2 男女共同参画社会の形成

男女が、「男は仕事、女は家庭」といったような性別による固定的な役割分担にとらわれずに、職場で、学校で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できるような地域づくりが必要である。

- 家庭、地域ともに男女平等、対等な関係確立の推進
- 地域の意識改革と女性への啓蒙を優先し、初歩段階として地域諸団体役員に女性を加え、計画立案段階からの共同参画
- その他男女共同参画社会の普及活動



第3章 快適で住みよい生活環境をめざして

道路交通網の整備は、国道 162 号の改良、岡田・深谷線の小屋・岡田間の早期開通および改良など、課題が山積している。

住環境の整備は、上水道整備はすでに完了しているが、引き続き平成 12 年度から下水道工事に着手し、快適な生活環境の条件が整備されつつある。

自然環境の保全是、ふるさと中名田のもつ、きれいな空と水と緑をいつまでも守っていかねばならない。温かい人と人のつながり、安らぎと素朴さをいつまでも持ち、更に住みよい環境づくりと地区の活性化のため、地区民の開かれた一層強い連帯感が望まれる。

第1節 社会的な生活基盤の整備

1 道路交通網の整備

- ・ 国道162号 相生・深谷間の改良工事の早期実現
- ・ 県道岡田・深谷線の改良および小屋・岡田間のトンネル早期開通
- ・ 歩道の整備、通学路の整備、危険箇所の整備



【改良がまたれるR162谷口～田茂谷間】



【国道162号谷口地係に設置した看板】

2 快適な住環境の整備

- 下水道の早期完成と全戸加入の促進
- 移動通信不感地域の解消(小屋地係)
- 公衆便所の設置(地区内に2~3箇所)
- 中名田公民館を中核とした複合施設への改築
- 遊歩道の新設(現在の堤防を利用する等)
- スポーツ施設の建設(冬季も利用可能な全天候型)
- 歩道の除雪
- ゴミの減量化と分別化

第2節 自然環境の保全

中名田地区は、南川、田村川の清流と美林に包まれた豊かな自然に深くかかわっている。

この自然を再認識し、地域の個性づくりに積極的に活用しながら自然との共生に配慮した定住環境が求められる。

特に当地区は、和紙の生産地に鑑み、荒廃地に三極、楮などを植樹し、和紙に必要な原材料の安定確保を図る。

更には、研ぎ炭、竹炭を含めた製炭業を復活し、荒廃した山林の保全に努める。

- 森林にかかわる施設

「ふるさと文化財の森構想」の誘致実現
伝統産業の和紙、製炭の後継者育成と地域の特色を活かした生涯学習活動の拠点施設とする。

- 田村川補修工事と堤防を舗装した遊歩道の設置
- 植林地の整備
- 雑木林の保全



【上田区堤防の桜並木】

第3節 川に親しむむらおこし

恵まれた自然環境を中名田地区「いこいの場」として、積極的に活用するため、南川や田村川の河川敷の整備、ほたるの里づくり、地区民が花と緑に彩られたゆとりあるむらづくりなど個性と魅力を備えた、誰もが住みたくなるむらづくりが求められる。



- 川遊びのできる場所の整備と河川(南川、田村川)公園の建設
- ホタルの里づくりと河川環境整備
- 河川沿いに菜の花、コスモス、彼岸花などの植栽
- 南川・中名田橋周辺の利用と活用(イベント広場・キャンプ場等)
- 淡水魚研究施設の建設

第4節 森に親しむむらおこし

優れた地域資源としての森林は、地域住民の身近な自然観察および自然体験の森として活用する。

- 飯盛山登山道の整備と展望台の設置
- 滝(小屋区・亀ヶ淵)を活かした環境整備
- 山とのかかわりが体験出来る施設やハイキングコースの設置



【地区民健康ウォーク】

第4章 健康で安心して暮らせる地域をめざして

中名田地区の高齢化率は、平成15年4月1日現在で33パーセントとなり、小浜市で一番の高率である。また、小学校の児童数は68人と減少し、若者の定住を図るための創意工夫が求められる。

このように少子高齢化が進み、人口のバランスがくずれて深刻な課題となっている中、特に高齢者が健康で安心して暮らせる地域の実現が急務である。

【健康に食べよう会】



第1節 日常的な健康づくりの継続的な実践

「自分の健康は自分でつくる」という健康基本理念に基づいて、健康意識の啓発と食生活改善推進員と連携し、地区の食生活の向上に努める。

中名田地区の健康診断の受診率は、小浜市においても高率で健康に対する認識度が非常に高い。今後も一層の受診向上に努めるとともに、生活習慣病や健康意識に応じた健康教育、健康相談などの講座を公民館で開設する。

- 健康づくり教室の開催と食生活の見直し
- 定期健康診断の受診（予防と早期発見、早期治療）
- 日常の健康づくりを実践

【健康づくり教室】



第2節 医療体制の充実

中名田地区には小浜市の施設を受けて、個人経営による診療所が存在し、多くの地区民が利用している。しかし利用頻度から早急な施設整備が必要である。

- 中名田診療所の施設整備

また、この地区は周囲を山野に包まれ豊富な薬草木が自生している。これらの薬草木の調査とその効用など分析・研究しこれを活用する。

- 身近で採取できる薬草の活用
オオバコ・ミヨウガ・アマチャ・ドクダミ・フキ・ワラビ・チャノキ・クマササ・コブシ・タラノキ・ナンテンなど

第3節 施設づくり

- 高齢者・身障者福祉施設の誘致
- 既存施設(空き家・センター等)を活かした高齢者の「ふれあいの場」の設置
- 若者の定住を図るための住宅建設
- 介護しやすい住宅改良の促進

第4節 生きがいづくり

高齢者の生きがいづくりは、老人クラブ活動を通じて、世代間交流やボランティア活動など永年培った豊富な知識と経験を活かし共に支えながら、地区に根ざした生きがいづくりの推進をめざす。

- 高齢者の雇用を可能にする地元特産品の開発

【地産地消をめざす朝市】

- 高齢者の労働力派遣組織の創設
- 趣味の仲間づくり
あらゆる年齢層が参加できる趣味の会



第5節 ボランティア活動の推進

近い将来中名田地区は、人口の動態にて分かるように高齢社会となり、独居老人や老人家庭が増えることが予測される。

住民で考え行動することが大切となり相互扶助的な「いなか」のよさをかみした地域ボランティア活動を推進する。

在宅福祉の充実

- ・ 地域ぐるみの助け合い
- ・ 一人暮らしの老人への日常的な声掛け

食事サービス

(独居老人のための食事サービス)

- ・ 配食サービス週1回
- ・ 昼食会の実施

ボランティア登録

(地区内のボランティアバンク)

- ・ ボランティア組織づくり
- ・ 自分ができる得意分野の登録



第5章 活力ある産業の振興をめざして

1 農業

農業の現状は、農業者の高齢化、後継者や担い手不足、米価の下落による生産意欲の減退など、農業離れが進み遊休農地が急増し、農地としての機能を失うばかりか中名田の景観も損なってしまう。

遊休地が増え後継者不足が深刻になる中、今後は地区内の高齢者や女性による趣向にあった農業も積極的に取り入れ、多くの人々が農業を生きがいとして楽しむ体制づくりが求められる。



2 林業

林業の現状は、国内林業の長引く経営不振に伴い、植林地の資産価値の下落、林業所有者の高齢化など、人工林の手入れの放棄による山野の荒廃が著しく、自然環境の破壊や自然災害の発生要因になっている。森林の健全な育成を図り温もりのある山村風景づくりが求められる。



特産品の開発については、当地区は山菜、きのこ、薬草など、豊富な食に恵まれている。これらを活かした特産品の開発が必要である。

第1節 農業・林業の振興

1 農業振興

農家を取り巻く情勢は依然として厳しく、農業従事者の高齢化や担い手の減少、耕作放棄地の増加、農業所得の低下による農業離れが進む中、農地を有効に利用する手だては十分でない。

自主性と創意工夫を活かして、農作業受託の促進、農地の流動化の推進などによる効率的な生産体制を構築し、農業を産業として、魅力とやりがいある農業構造を実現する。

現在、他地区では基幹作物である水稲や麦、大豆などの土地利用作物は、個別経営だけでなく、集落営農組織(法人化)が生産の担い手となっている。

法人化によって、農地の計画的利用や作業の分業化が進み、機械や施設の有効利用、労働軽減、コス

ト低減が可能となる。

集落の農業を今後どのようにやっていけばいいのか、そのために何をしなければならぬのか、集落内で話し合い、合意形成することが重要である。

- **休耕田対策**

農作業委託制度の促進、転作物栽培の検討

- **後継者の育成**

中高年を対象にした耕作者の維持と確保

- **獣害対策**

県、市などの補助金を利用した電柵などの設置・駆除など

- **集落営農組織(法人化)の検討**

2 林業振興

森林は林産資源であるだけでなく、自然災害予防の見地からも重要な公益的機能を果たしている。

今後は、林業の経営意欲向上と林業の担い手の確保に努めながら、長期的な展望のもとに林業生産基盤の整備を促進する必要がある。

当面の対策として、造林、間伐、保全などの森林整備を促進し、健全で活力ある林業の振興に努める。

- 共有林などの整備
(枝打ち、間伐など)
- 間伐材の利用促進
- 森林整備を促進するための林道整備

第2節 地域産業の振興と特産品の開発

中名田地区の特性に応じた新たな特産物の研究、消費動向に合った個性あるブランド商品の研究、開発を進める。

食のまちづくりにふさわしい、安全な食にこだわった有機野菜や地産地消を推進し、地域需要を回り魅力ある農業経営を推進する。更に、農家自らが行う日常生産活動などを利用し、直売、体験型農業、観光農園などの取り組みにより、活気ある農業経営の推進と都市農村交流活動推進の受け皿整備を行う。

▪ 地産地消の推進

学校給食用の食材提供

地元産の野菜類直売活動

- 地元米の自主流通販売の促進
- 地元野菜、山菜、薬草を利用した特産加工品の開発
- 和紙、木竹炭生産の復活と特化



【中名田小卒業証書を
若狭和紙で】

第6章 IT革命時代に即応した地域づくり

ホームページの開設

情報技術時代に即応した地域づくりを推進するため、ホームページを開設し中名田の伝統的芸能、神社仏閣、特産品など広く紹介する。

ホームページを通じ、元気のあるむらづくりを発信し、地区外在住の中名田出身者や他地域からの意見・提言を当委員会に反映させる。

また、「ふるさと」を身近に感じる情報発信源として、PRを住民にお願いする。

IT促進として、公民館において「パソコン教室」を開催し、多くの住民がパソコン操作を出来るようにする。



【住民講師による
インターネット教室】

ホームページアドレス

<http://www5.ocn.ne.jp/~nakanata/>
平成14年11月17日開設

iモードアドレス(携帯電話)

<http://www5.ocn.ne.jp/~nakanata/i/>
地区行事・公民館使用状況を毎日発信
消火栓・防火水槽(防災マップ)を表示



【3月1日現在

アクセス数4,600】

中名田地区長期構想計画策定委員会経過

- 平成12年11月19日 中名田地区長期構想策定委員会発足
- 平成13年 8月11日 全員委員会(地区の将来ビジョンに関して、長期構想計画の策定及び実施推進等のあり方)
- 9月12日 役員会(住民アンケート調査内容及び今後の方針協議)
- 10月12日 全員委員会(住民アンケート調査実施方法及び部会の設置検討)
- 10月25日 住民アンケート実施(地区内20歳以上 1,138人対象)
- 12月14日 市内公共施設査察 19名
清掃センター、若狭ハイツ、西養護学校、サンサンホーム、森林の水PR館、松永集落排水処理施設、
- 平成14年 2月 1日 役員会(部会構成について)
- 2月17日 全員委員会(部会など今後の方針協議)
アンケート調査結果報告(回収率 75.8%)
- 2月22日 部会長会(部会設置)飛躍、快適、安心、活力、
- 6月11日 ホームページ委員会打合せ会
- 7月 5日 先進地視察(京都府大宮町)38名参加
- 7月12日 部会長会(部会の討議内容について)
- 10月 4日 役員会
- 10月 7日 部会長会(中間報告会に向けて)
- 11月 2日 部会長会(田村の郷夢づくり委員会中間報告検討会)
- 11月 5日 中名田小学校児童作品募集依頼
- 11月11日 学校給食食材料生産グループの結成
- 11月17日 中名田公民館ホームページ「田村の郷 e たより」発信
- 12月 7日 田村の郷夢づくり委員会中間報告会
飛躍、快適、安心、活力、IT、の各部会報告
- 12月25日 部会長会(中間報告会を終え、今後の進め方)
- 平成15年 3月12日 部会長会(検討内容の分類)
- 4月30日 全員委員会(検討内容の分類)
- 5月 1日 生活改善の見直し提言を地区区長会へ答申
- 6月13日 先進地視察(兵庫県山南町「ふるさと文化財の森」「薬草薬樹公園」、篠山市)31名参加
- 7月24日 部会長会(先進視察を終えて、部会最終報告について)
- 10月 2日 役員会(公共施設誘致懇談会)
- 10月15日 部会長会(まとめについて)
- 11月 7日 部会長会(まとめの検討について)
- 12月 6日 全員委員会(長期基本構想策定書素案検討会)
- 平成16年 2月24日 部会長会(最終検討会)

各部会開催日

飛躍部会

平成14年 4月26日
5月21日
6月21日
7月29日
8月30日
9月27日
10月24日

快適部会

平成14年 4月27日
5月24日
6月14日
6月28日
7月19日
8月29日
10月 4日
10月25日
12月 3日

安心部会

平成14年 4月10日
5月23日
6月20日
7月18日
8月22日
9月26日
10月24日
平成15年 5月28日

活力部会

平成14年 4月18日
5月22日
6月19日
7月18日
8月21日
9月19日
10月23日

I T部会

平成14年 10/26・11/17HP 公開
編集会議都度開催

中名田地区長期基本構想計画策定委員会

顧問 小堂 清之 小浜市議会議員
委員長 東 義生
副委員長 池田 亦典
書記 小堂 宗健

飛躍部会 ……………新しい時代にふさわしい生活・明日を担う人材育成

部会長 大山 武夫
森脇 庄治郎 木崎 正 中野 幸弘 石垣 強
小堂 志郎 村上 市治 仲野 とよ子 野勢 恵子
大岸 定代 大岸 功 大江 美里 杉山 加代子

快適部会 ……………快適で住みよい生活環境

部会長 奥東 良治
寺田 弘幸 休位 敏彦 中野 秀幸 林 工
岡 登志郎 西浦 三郎 芝 三津男 谷口 真紀
松林 博子 東 美幸 大下 昌子 大江 利明

安心部会 ……………健康で安心して暮らせる地域

部会長 廣瀬 實
内方 豊志 野瀬 稔 吉田 隆 大下 新一
大岸 庄太郎 林 茂晴 生木谷 芳子 芝 美代子
市橋 祐子 杉山 弘 大山 小夜子 大道 由紀子

活力部会 ……………活力ある産業の振興

部会長 中野 武
廣瀬 信博 高橋 俊男 大江 初男 森下 正二
上山 昭二郎 中野 義一 大畑 明男 池田 弥生
小堂 勝子 岸本 美恵子 中野 浩道 橋本 まり子

IT部会 ……………中名田地区ホームページの開設

林 茂晴 岡 登志郎

事務局(公民館職員) 内方 和彦 小堂 生津子 林 茂晴

中名田地区長期基本構想計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 21世紀を展望した中名田地区の将来ビジョン事業に関して、長期構想計画の策定およびその実施の推進に必要な措置等を総合的に審議し、協議調整するため、中名田地区長期基本構想計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、対象事業の長期構想について、討議および検討し、その結果を策定完成時の中名田地区区長会に答申する。

(組織および職務)

第3条 委員会は、委員長、副委員長、書記および委員をもって組織する。

- 2 委員長は、委員の中から互選し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長が委員の中から任命し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。
- 4 委員は、小屋、上田、下田、和多田、深野および深谷各地区選任の委員4名および中名田公民館長並びに公募による委員をもって充てる。
- 5 委員に事故があるときは、委員があらかじめ指名する者がその職務を代理する。
- 6 書記は、委員長が委員の中から任命する。

(顧問)

第4条 委員長は、委員会に顧問を置くことができる。
2 顧問は、地元市議会議員の職にある者をもってあてる。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、平成12年12月1日から平成16年3月31日までの間とする。ただし、諸般の事情により構想計画が遅延したときは、当該構想計画が完成する日までの間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。
2 委員4名以上の者から委員会の招集の請求があつたときは、委員長は会議を招集しなければならない。
3 会議の議長は、委員長がこれに充たる。

(部会)

第7条 委員長は、必要に応じて部会を設置することができる。

- 2 部会は、委員長から委任を受けた委員で構成し、事業推進の必要な措置について、それぞれ研究および立案し、その結果を当該部会長が委員長に報告しなければならない。
- 3 部会は、委員長の了解のもと随時開くことができる。
- 4 部会の会議は、前条の規定を準用する。

(部会長等)

第8条 委員長は、部会の事務処理を行うため、部会毎に部会長、副部会長および書記を置くことができる。

(関係者の出席)

第9条 委員長は、必要と認めた事項に関し、会議に関係者の出席を求め、意見又は説明を聞くことができる。

(事務処理)

第10条 委員会の事務は、中名田公民館で処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めのない事項については、その都度、委員長が委員会に諮って決定する。ただし、軽易な事項は、委員長の決するところによる。

附 則

1 この要綱は、平成12年12月1日から施行する。

附 則 (平成13年8月11日一部改正)

1 この要綱は、平成13年8月11日から施行する。

田村の郷ゆめづくりアンケート集計結果

実施日 平成13年10月25日～11月5日

対象 中名田在住の20歳以上全員

年代別回答者数

	小屋	上田	下田	和多田	深野	深谷	計	割合
20代	1	10	16	21	6	11	65	7.6%
30代	2	13	28	20	10	9	82	9.6%
40代	8	12	45	41	24	15	145	17.0%
50代	9	25	39	33	16	20	142	16.7%
60代	13	34	56	49	16	25	193	22.7%
70代	18	31	49	40	18	17	173	20.3%
80代以上	3	7	11	17	6	6	50	5.9%
不明	0	2	0	0	0	0	2	0.2%
計	54	134	244	221	96	103	852	100%

回収率

	小屋	上田	下田	和多田	深野	深谷	計
配布数	84	203	285	282	122	148	1,124
回収数	54	134	244	221	96	103	852
回収率	64.3%	66.0%	85.6%	78.4%	78.7%	69.6%	75.8%

問1 あなたは、この中名田に「自分のまち・むら」といった愛着や親しみを感じていますか。

	度数	割合
感じている	536	71.4%
感じていない	84	11.2%
わからない	131	17.4%
計	751	100.0%

問2 あなたは、中名田は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。

	度数	割合
非常に住みやすい	118	14.4%
やや住みやすい	312	38.1%
どちらともいえない	224	27.4%
やや住みにくい	137	16.7%
非常に住みにくい	28	3.4%
計	819	100.0%

問3 あなたは、これからも中名田に住みたいと思いますか。

	度数	割合
住みたいと思う	471	57.0%
あまり住みたいとは思わない	153	18.5%
住みたくない	33	4.0%
どちらともいえない	170	20.6%
計	827	100.0%

副問1 住みたい理由は何でしょうか。この中からいくつでも選んでください。

	度数	割合
生まれ育ったところだから	318	20.0%
家や土地があるから	316	19.9%
住みなれているから	246	15.5%
親戚や親しい人がいるから	172	10.8%
隣近所とうまくいっている	133	8.4%
自然環境がよいから	195	12.3%
公害が少ないから	111	7.0%
公共施設が整っているから	8	0.5%
通勤・通学に便利だから	16	1.0%
買物など生活に便利だから	9	0.6%
仕事や商売に有利だから	6	0.4%
娯楽施設があるから	5	0.3%
医療・介護施設が近いから	14	0.9%
まもなく上下水道が整うから	28	1.8%
その他	11	0.7%
計	1,588	100.0%

副問2 住みたくない理由は何でしょうか。この中からいくつでも選んでください。

	度数	割合
生まれ育ったところでないから	17	2.4%
自分の家や土地でないから	5	0.7%
住んで間もないから	1	0.1%
親戚や親しい人がいないから	5	0.7%
隣近所となじめないから	5	0.7%
世間の目がうるさいから	67	9.4%
地区行事が多いから	74	10.4%
公共施設が整ってないから	58	8.1%
通勤・通学に不便だから	115	16.1%
買物など生活に不便だから	141	19.7%
仕事や商売に不利だから	31	4.3%
娯楽施設がないから	39	5.5%
医療・介護施設が遠いから	84	11.8%
冠婚葬祭等が簡素化されていない	69	9.7%
その他	3	0.4%
計	714	100.0%

アンケート集計結果 ◆◆◆

問4 中名田の「暮らしやすさ」について伺います。この項目の一つ一つに「満足している」「どちらかといえば満足している」ときは○印を、「どちらかといえば不満である」「不満である」ときは×印をご記入ください。「どちらともいえない」ときは△印をご記入ください。

	○							×							△						
	小豆	上田	下田	和多田	須野	渡谷	計	小豆	上田	下田	和多田	須野	渡谷	計	小豆	上田	下田	和多田	須野	渡谷	計
自然災害の心配がない	10	40	72	74	34	35	265	17	25	55	31	15	26	169	17	52	99	94	37	34	333
水害の心配がない	7	33	50	70	36	33	229	21	42	64	36	15	30	208	11	42	97	86	36	31	303
火災の心配がない	12	40	46	50	22	19	189	11	20	44	36	13	28	152	15	55	123	102	48	46	389
安全に避難できる	6	35	46	45	26	24	182	19	34	60	58	17	32	220	15	47	98	82	41	35	318
交通事故の危険が少ない	32	75	121	84	21	18	351	4	8	26	21	16	30	105	10	33	72	84	44	37	280
犯罪が少なく風紀がよい	27	84	156	132	85	60	524	2	3	9	6	1	8	29	13	27	37	47	18	24	166
日当たり・風通しがよい	26	92	172	161	41	54	546	13	15	27	18	27	30	130	7	10	26	27	25	12	107
空気・川が汚れていない	36	103	164	136	59	57	555	2	7	10	13	4	12	48	9	10	41	46	22	25	153
ゴミ処理の状況がよい	27	68	109	102	52	49	407	5	15	31	24	6	15	96	9	30	75	60	23	28	225
騒音がなく静かである	33	116	208	163	58	53	631	1	0	2	5	9	21	38	3	1	14	20	20	13	71
悪臭がない	30	99	160	132	66	62	549	4	3	17	5	4	14	47	8	18	35	48	11	16	136
自然に恵まれている	42	119	210	185	83	87	726	0	0	2	1	0	1	4	1	1	9	5	3	8	27
住宅に満足している	20	90	142	106	60	55	473	9	7	23	27	9	18	93	11	23	54	61	24	23	196
医療施設が整っている	4	8	15	17	16	18	78	19	68	131	112	39	46	415	11	39	59	44	27	26	206
道路が整備されている	16	23	55	64	28	23	209	20	51	91	64	28	42	296	10	45	72	58	29	26	240
公共交通の便がよい	7	5	4	8	12	7	43	29	83	163	137	30	67	509	5	29	41	43	18	15	151
買物が便利である	2	3	8	11	8	2	34	33	95	173	143	62	72	578	0	21	33	39	16	16	125
物価が安い	1	5	6	7	3	1	23	28	84	138	123	58	68	499	8	27	63	52	22	19	191
学校や保育園が近い	4	42	165	82	13	6	332	27	28	13	47	45	58	218	9	39	17	63	38	26	192
集会所が整っている	26	92	142	109	68	63	500	6	10	25	22	5	15	83	11	17	42	53	12	18	153
家並みが美しい	9	34	60	53	23	20	199	8	12	33	32	18	27	130	20	59	108	102	40	42	371
公園・遊び場が整っている	1	14	17	38	12	12	94	32	55	130	79	29	44	369	5	39	53	61	40	30	228
公衆道徳が守られている	11	38	76	43	35	29	232	7	25	35	29	12	23	131	22	48	91	107	32	31	331
人が親切で人情がある	27	74	149	114	60	59	483	2	6	12	18	2	16	56	16	36	54	57	20	18	201
祭りなど昔からの行事がある	10	78	119	112	51	40	410	15	11	29	23	1	23	102	15	27	61	60	28	29	220
サークル活動が盛んである	7	33	43	52	19	11	165	14	29	50	33	18	35	177	15	41	98	91	42	41	328
地域社会としてまとまっている	10	51	87	61	39	30	278	7	16	26	26	4	22	101	24	47	90	94	38	38	331
昔からの慣習が残っている	15	51	93	81	30	33	303	11	33	56	46	10	21	177	15	27	61	51	40	29	223
考え方が新しい感覚である	4	15	29	28	7	12	95	18	45	94	70	26	35	286	21	50	79	81	44	37	312
計	462	1560	2744	2320	1047	972	9105	302	830	1569	1285	521	879	5466	336	940	1802	1818	838	773	6507

問5 今までに生活改善として、香典や見舞返などの廃止に取り組んできましたが、これからも改善していかなければならないところがあると思いませんか。

	度数	割合
ある	385	50.9%
ない	100	13.2%
わからない	271	35.8%
計	756	100.0%

問6 各種の地区行事が行われていますが、この中で改善したらよいものがありますか。あればいくつでも選んでください。

	度数	割合
敬老会	95	15.5%
社会奉仕作業	87	14.2%
体育祭	137	22.4%
健康ウォーク	33	5.4%
総合文化祭	112	18.3%
大型危険物収集	59	9.7%
ボウリング大会	76	12.4%
その他	12	2.0%
計	611	100.0%

問7 中名田は6つの区に分かれています。将来は区が合併するほうがよいのではないかという意見があります。あなたはどう思いますか。

	度数	割合
するほうがよい	62	8.9%
今のままだがよい	414	59.4%
わからない	221	31.7%
計	697	100.0%

問8 (65歳以上のみ回答)あなたは、毎日の生活の中で生きがいを感じることはありませんか。

	度数	割合
ある	139	48.6%
ときどきある	68	23.8%
あまりない	49	17.1%
ない	8	2.8%
わからない	22	7.7%
計	286	100.0%

副問1 生きがいを感じる時はどんなときですか。この中からいくつでも選んでください。

	度数	割合
家族と暮らす	144	19.8%
健康である	144	19.8%
同年齢の人と過ごす	59	8.1%
仕事を	98	13.5%
旅行を	60	8.3%
奉仕を	36	5.0%
買物を	37	5.1%
飲食を	29	4.0%
趣味を	62	8.5%
老人会の活動をする	54	7.4%
その他	3	0.4%
計	726	100.0%

問9 あなたは、高齢になったとき、どんな生活の形態で過ごしたいですか。

	度数	割合
自分の家で家族と	516	75.0%
老人ホームで	70	10.2%
老人共同生活で	85	12.4%
その他	17	2.5%
計	688	100.0%

問10 あなたは、自分に介護が必要になったとき、どんな介護を希望しますか。

	度数	割合
自宅介護	323	50.9%
施設介護	293	46.2%
その他	18	2.8%
計	634	100.0%

問11 高齢化が進んだ地区では老後や介護が切実な問題です。この中名田は、市内で高齢化の割合が高い地区です。このことについて、私たちで取り組めることがありますか。この中から取り組むとよいと思うものを3つ以内で選んでください。

	度数	割合
高齢者の文化活動を促進する	71	5.2%
高齢者の健康づくりを充実する	274	20.3%
高齢者の働く機会や場を確保する	224	16.6%
高齢者の知識や経験を活用する	150	11.1%
老人会を助成する	26	1.9%
ボランティアの育成と活動を促進する	88	6.5%
一人暮らしの老人に対する支援を促進する	191	14.1%
憩いの場や他世代とも交流できる施設を整備する	269	19.9%
学校教育の学童との交流を図る	54	4.0%
その他	6	0.4%
計	1353	100.0%

問12 地区の人口は、2020年以降減少していきます。少子化の問題等がありますが、人口減少を食い止めるためにどんな対策を取ればよいでしょうか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
若者の定着	401	35.4%
家から通える働く場所の確保	447	39.4%
結婚相手紹介	147	13.0%
住宅地の確保	88	7.8%
小学生の農村留学受け入れ	39	3.4%
その他	12	1.1%
計	1134	100.0%

問13 平成14年度から学校は週5日制となります。子供たちは家庭やその地域で育れます。この学校週5日制の実施に伴う休日を子供たちはどのように過ごすのがよいと思いますか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
家族とともに過ごす	341	25.4%
自由に遊ばせる	245	18.3%
何もせずに休養する	7	0.5%
友人と遊ぶ	221	16.5%
勉強する	65	4.9%
習い事をする	57	4.3%
地区の行事に参加する	157	11.7%
地区の施設を利用して過ごす	91	6.8%
サークルやグループで活動する	147	11.0%
その他	9	0.7%
計	1,340	100.0%

問14 中名田には史跡、伝統芸能、有形・無形の文化財などとして現在も保存されているものがありますが、また一方、埋もれたままになっているものも数多くあるものと思われます。これらは私たちの歴史を物語るものです。もう一度復活させるとよいと思うものがありますか。

	度数	割合
ある	58	9.9%
ない	106	18.2%
わからない	420	71.9%
計	584	100.0%

問15 中名田は、水の清らかな南川と田村川、そして豊かな森林に囲まれた美しい自然環境に恵まれています。この美しい自然環境は、今後も保全していかなければならない私たちの大切な財産です。いま、あなたの身近に自然環境をだめにしていることがありますか。

	度数	割合
ある	173	30.0%
ない	132	22.9%
わからない	272	47.1%
計	577	100.0%

問16 海での漁獲を増やすために森林づくりが大切であると、福井県では平成12年度から「豊かな海の森林づくり」を進めています。小浜市でも、うまい海の魚などを中心とした食文化のまちづくりを目指しています。南川の上流に位置し、山の栄養を海に供給する地理的位置にある中名田では、このことで事業(または、何かやれること)を起こすことはできますか。

	度数	割合
できる	92	17.3%
できない	47	8.9%
わからない	392	73.8%
計	531	100.0%

アンケート集計結果 ◆◆◆

問17 地区内の清らかな川と豊かな森林を、憩いの場や遊びの場として積極的に活用して、地域振興・地域づくりに役立たせるとよいという意見がありますが、あなたはどう思いますか。

	度数	割合
いいことだと思う	397	67.2%
する必要がないと思う	44	7.4%
どちらともわからない	150	25.4%
計	591	100.0%

副問1 地域振興・地域づくりに役立たせたい川や森林の活用構想として、この中からいくつでも選んでください。

	度数	割合
水辺の公園	112	12.6%
川遊びができる場所	243	27.4%
蛍の里	119	13.4%
川魚の里	94	10.6%
里山の公園	111	12.5%
山との関わりが体験できる施設	199	22.5%
その他	8	0.9%
計	886	100.0%

問18 道路を整備することは、地区の振興の上で特に重要なことです。どの道路から整備したり、新設すればよいと思いますか。すうじ1、2、3・・・で順序をご記入ください。

順位	全体					計
	1	2	3	4	5	
国道162号線 田茂谷～谷口	405	100	61	23	1	590
県道深谷・岡田線 大飯町への連絡道	131	184	126	105	5	551
県道深谷～小屋拡幅整備	34	167	222	79	8	510
集落内や集落相互の市道の整備	33	113	128	191	6	471
その他	4	2	2	4	45	57
計	607	566	539	402	65	2,179

問19 ここでは田圃についてお伺いします。(世帯主だけ回答)

中名田では、農業は欠かせない産業です。あなたの所有している田の面積はどれだけですか。

	度数	割合
3反未満	120	41.0%
3～5反未満	60	20.5%
5反～1町未満	33	11.3%
1町以上	2	0.7%
なし	78	26.6%
計	293	100.0%

副問1 あなたのお家には農業後継者はいますか。

	度数	割合
いる	51	23.5%
いない	113	52.1%
わからない	53	24.4%
計	217	100.0%

副問2 今後の農業経営についてどのように考えていますか。この中から1つだけ選んでください。

	度数	割合
後継者がいるので、今後とも自分で耕作する	26	14.5%
今後は農業規模を拡大していきたい	2	1.1%
家で消費する分だけを耕作して、その他は委託したい	81	45.3%
一部の作業のみを委託したい	11	6.1%
すべての田について委託したい	45	25.1%
その他	14	7.8%
計	179	100.0%

問20 中名田には、かつては農業以外に製紙業(和紙づくり)や製炭(炭焼)・造植林などの地場産業といえるものがありました。もちろん、これからもこれらの産業の発展を期待しますが、これから地区で新しく取り組むとしたら何が適しているとお考えですか。いくつでも選んでください。

	度数	割合
農業関連	101	22.7%
林業関連	119	26.8%
水産業関連	15	3.4%
加工業	53	11.9%
製造業	42	9.5%
建設業関連	16	3.6%
観光	53	11.9%
商業	4	0.9%
サービス業	15	3.4%
IT関連	16	3.6%
その他	10	2.3%
計	444	100.0%

問21 中名田だけの特産品を目指すとしたら、どんなものがありますか。この中から1つ選んでください。

	度数	割合
良質の米	59	15.0%
そば	28	7.1%
豆などの穀類	7	1.8%
野菜類	33	8.4%
果樹栽培	18	4.6%
花類	25	6.3%
植木	9	2.3%
茶木	15	3.8%
薬草	40	10.2%
きのこ類	36	9.1%
農産物加工品	16	4.1%
木加工品	12	3.0%
紙加工品	63	16.0%
竹加工品	22	5.6%
その他	11	2.8%
計	394	100.0%

問22 あなたは、地区内にどのような施設・設備を希望しますか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
公園・遊園広場	168	12.0%
地域図書館	61	4.4%
集会施設	16	1.1%
スポーツ施設	168	12.0%
高齢者福祉施設	387	27.6%
障害者福祉施設	48	3.4%
特産物振興施設	67	4.8%
林業振興施設	51	3.6%
保健・医療施設	223	15.9%
歩道・ガードレール	83	5.9%
信号機・道路標識	14	1.0%
防犯灯	71	5.1%
公衆便所	43	3.1%
その他	2	0.1%
計	1402	100.0%

問23 あなたは、中名田が将来にわたり、どのような視点を大切にしたい地区として発展していくことが望ましいと思いますか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
自然を大切にする緑豊かな地域	396	25.3%
高齢者が生きがいを感じる地域	297	19.0%
子供たちを育む教育の充実した地域	281	18.0%
歴史と伝統に培われた文化の盛んな地域	64	4.1%
男女共同参画の行き渡った地域	31	2.0%
スポーツが盛んで健康な地域	35	2.2%
産業が盛んな活力あふれた地域	90	5.8%
交通事故や災害に強い安全な地域	80	5.1%
住民のふれあいと連帯のある地域	113	7.2%
生活に潤いがあり人情味あふれる地域	175	11.2%
その他	2	0.1%
計	1564	100.0%

問24 中名田が豊かで生き生きとした住みよい地区にする地域づくりのために、まず取り組まなければならない重要なことは何ですか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
生活改善	245	19.5%
行事等の見直し	200	15.9%
高齢者福祉の充実	170	13.6%
教育の充実と青少年健全育成	65	5.2%
文化の振興	14	1.1%
自然環境の保全	81	6.5%
道路の整備	225	17.9%
農林業の振興	50	4.0%
地場産業の振興	96	7.7%
公共施設の整備・設置	77	6.1%
男女共同参画社会の実現	27	2.2%
その他	4	0.3%
計	1254	100.0%

問25 みんなで楽しく過ごせたり、地区外からもおおぜいの人が集まって交流できるような、中名田でしかできない、中名田をピーアールできるイベントとしてどんなことがありますか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
神社などの祭と同時に	92	13.7%
総合文化祭の中で	33	4.9%
伝承芸能を活用する	62	9.3%
川を利用する	81	12.1%
蛸に関連させる	39	5.8%
松上げと関連させる	37	5.5%
地区体育祭と同時に	21	3.1%
盆踊りと関連させる	31	4.6%
ドミノ倒し	10	1.5%
写真撮影大会	15	2.2%
中名田の自然を描く写生大会	17	2.5%
市内持ち回りの健康ウォークの開催	61	9.1%
都会と農作業体験を通じた交流会	103	15.4%
食文化を支える郷土料理大会	64	9.6%
その他	4	0.6%
計	670	100.0%

問26 公民館は、地域の活性化や地域づくりの拠点となるところです。あなたは、行政関係以外でどんなことを望みますか。この中から3つ以内で選んでください。

	度数	割合
趣味の会	185	22.3%
教養的な催し	91	11.0%
家庭生活を充実させる催し	106	12.8%
職業上の知識・技能習得の催し	100	12.1%
健康管理をする催し	177	21.4%
スポーツの催し	34	4.1%
育児に関する催し	38	4.6%
介護に関する催し	92	11.1%
その他	6	0.7%
計	829	100.0%

中名田地区長期構想計画表

章別	基本構想計画項目	実施目標			実施主体		
		短期	中期	長期	地区民	市と地区民	市
第1章	第1節 生活の見直しと改善 実施済※平成15年6月1日より				○		
新しい時代にふさわしい生活をめざして	第2節 行事の見直しと時代にふさわしい行事への改善						
	健康ウォーク……継続事業				○		
	地区民体育祭……隔年実施や小学校及び保育園と合同実施	○			○		
	総合文化祭……諸団体の参加を視野に入れた改善	○			○		
	敬老会……参加会員の徴収や年齢の引き上げ検討	○			○		
	第3節 伝統・伝承文化の継承と創造						
	・行事や種々の試みに対し、広報活動の推進	○			○		
	・地域の祭りに付随する神楽や大太鼓をアレンジした地域独特の大太鼓グループの結成		○		○		
	・文化財の掘り起こし（田村薬師、小村城跡、和紙、染紙、紙加工等の観光宣伝）	○			○		
	・伝統的芸能「文七踊り」等を核とした地域全体行事の企画	○			○		
第2章	第1節 家庭や地域社会の支援、課題が共有できる環境づくり						
明日を担う人材の育成をめざして	1、家庭や地域社会の教育の充実・推進						
	・地域全体で子ども達を育成する環境づくり	○			○		
	・他人の子を叱り、ほめられる環境づくり	○			○		
	・あいさつ運動の展開	○			○		
	・世代間交流（三世交代が望ましい）の推進	○			○		
	・特技を持つ人材による子ども向けの体験講座の開設	○			○		
	・地区外の児童生徒、家族の参加を視野に入れた自然（林道、川等）を利用した野外活動の企画立案	○			○		
	・地域に根づく若いふるさとの担い手の育成	○			○		
	・家庭・地域・学校の連帯強化	○			○		
	2、男女共同参画社会の形成						
	・家庭、地域ともに男女平等、対等な関係確立の推進					○	
	・地域の意識改革と女性への啓蒙を優先し、初歩段階として地域諸団体役員に女性を加え、計画立案段階からの共同参画	○			○		
	・その他男女共同参画社会の普及活動	○			○		
	第3章	第1節 社会生活基盤の整備					
快適で住みよい生活環境をめざして	1、道路交通網の整備						
	・国道162号相生・深谷間の改良工事の早期実現	○					○
	・県道岡田深谷線の改良及び小屋・岡田間のトンネル早期開通	○					○
	・歩道の整備、通学路の整備、危険箇所の整備	○					○
	2、快適な住環境の整備						
	・下水道の早期完成と全戸加入の促進	○					○
	・移動通信不感地域の解消（小屋地係）	○					○
	・公衆便所の設置（地区内に2～3箇所）	○					○
	・中名田公民館を中核とした複合施設への改築		○				○
	・遊歩道の新設（現在の堤防を利用する等）		○				○
	・スポーツ施設の建設（冬季も利用可能な全天候型）		○				○
	・歩道の除雪	○					○
	・ゴミの減量化と分別化	○			○		
	第2節 自然環境の保全						
	・森林にかかわる施設（ふるさと文化財の森）構想の誘致実現	○					○
	・田村川補修工事と堤防を舗装した遊歩道の設置		○				○
	・植林地の整備		○			○	
	・雑木林の保全	○				○	
第3節 川に親しむむらおこし							
・川遊びのできる場所の整備と河川（南川・田村川）公園の建設		○				○	
・ホテルの里づくりと河川の環境整備	○			○			

章別	基本構想計画項目	実施目標			実施主体		
		短期	中期	長期	地区民	市と地区民	市
第3章	第3節 ・南川・中名田橋周辺の利用と活用（イベント広場・キャンプ場等）		○			○	
	・淡水魚研究施設の建設			○			○
	第4節 森に親しむむらおこし						
	・飯盛山登山道の整備と展望台の設置	○				○	
	・滝（小屋区・亀ヶ淵）を活かした環境整備		○			○	
	・山とのかかわりが体験できる施設やハイキングコースの設置		○				○
第4章	第1節 日常的な健康づくりの継続的な実践						
	・健康づくり教室の開催と食生活の見直し	○				○	
	・定期健康診断の受診（予防と早期発見、早期治療）	○				○	
	・日常の健康づくりの実践	○				○	
	第2節 医療体制の充実						
	・中名田診療所の施設整備		○				○
	・身近で採取できる薬草の活用	○			○		
	第3節 施設作り						
	・高齢者・身障者福祉施設の誘致		○				○
	・既存施設（空き家・センター等）を活かした高齢者の「ふれあいの場」の設置	○			○		
	・若者の定住を図るための住宅建設		○			○	
	・介護しやすい住宅の改良の促進		○			○	
	第4節 生きがいつくり						
	・高齢者の雇用を可能にする地元特産品の開発	○				○	
	・高齢者の労働力派遣組織の創設	○			○		
	・趣味の仲間作り（あらゆる年齢層が参加できる趣味の会）	○			○		
	第5節 ボランティア活動の推進						
	1、在宅福祉の充実						
	・地域ぐるみの助け合い	○			○		
	・一人暮らしの老人への日常的な声掛け	○			○		
	2、ボランティア登録（地区内のボランティアバンク）						
	・ボランティア組織づくり	○			○		
	・自分が得意分野の登録	○			○		
	3、食事サービス（独居老人のための食事サービス）						
	・配食サービス週1回	○				○	
	・昼食会の実施	○				○	
	第5章	第1節 農業・林業の振興					
1、農業振興							
・休耕田対策（農作業委託制度の促進、転作物栽培の検討）		○				○	
・後継者の育成（中高年を対象にした耕作者の維持と確保）		○			○		
・獣害対策（県、市などの補助金を利用した電柵などの設置・駆除等）		○				○	
・集落営農組織（法人化）の検討		○				○	
2、林業振興							
・共有林などの整備（枝打ち、間伐など）			○		○		
・間伐材の利用促進		○			○		
・森林整備を促進するための林道整備			○				○
第2節 地域産業の振興と特産品の開発							
・地産地消の推進（学校給食の食材提供・地元産野菜類の直売活動）		○			○		
実施済 ※学校給食食材供給グループを15年2月設立し運営 実施済 ※朝市を15年11月・12月に開催							
・地元米の自主流通販売の促進		○			○		
・地元野菜、山菜、薬草を利用した特産加工品の開発	○				○		
・和紙、木竹炭生産の復活を特産化	○			○			
第6章	IT革命時代に即応した地域づくり						
	・ホームページの開設 ※実施済 平成14年11月17日				○		

健康で安心して暮らせる地域をめざして

活力ある産業の振興をめざして